

令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	名古屋大学、岐阜大学	主な交流先	オーストラリア
事 業 名	ポスト SDGs 時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成		
海 外 の 相 手 校	モナシュ大学、アデレード大学、西オーストラリア大学、クイーンズランド大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、ポスト SDGs 時代の経済安全保障という挑戦的なテーマを掲げ、すでに交流実績があるオーストラリアの協定校等と連携し、国際的なプロフェッショナル人材を養成する取り組みである。生命農学、医学系の研究科を中心に、短期スタディーツアー、短期受入・派遣と博士課程中心の長期受入・派遣を組み合わせた教育・研究両面のプログラムである。相手先のうち、2大学とはすでにジョイント・ディグリープログラムを確立済みであり、その実績をもとに、さらに新たなジョイント・ディグリープログラムを展開する取組として評価される。成績管理の枠組みは、透明性・客観性が高く、学位授与に至るプロセスも明確である。また、達成目標も比較的高く設定されているほか、学生が積極的に企画・運営するシンポジウムが予定されており、SDGsに関する討議も充実したプログラムが組まれている。

一方、既存の交流、現行のプログラム構成と大きな違いが見られず、新たなターゲットに焦点を当てた、より明確な教育の方向性が求められる。また、経済安全保障をテーマに掲げているものの、生命農学、医学系が主体となっており、人文社会科学系を視野においた学生の参加、プログラム編成が望まれる。さらに、インド太平洋という視点からは、大きな役割を果たすと考えられるインドの大学との交流が望まれる。加えて、国内連携の枠組みの中で、岐阜大学が、とりわけ派遣・受入に関して、より積極的な役割を果たすことも求められる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。